

## 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名	: フィプロスポット キャット
会社名	: 共立製薬株式会社
住所	: 〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-11-5
担当部門	: 品質保証部
電話番号	: 03-3264-7196
FAX 番号	: 03-3264-0733
メールアドレス	: hinshitsu@kyoritsuseiyaku.com

## 2. 危険有害性の要約

フィプロスポット キャット

## GHS 分類

## 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分 3

## 健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分 4

皮膚腐食性・刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分 2B

生殖毒性 : 区分 2

特定標的臓器毒性（単回暴露） : 区分 1

特定標的臓器毒性（反復暴露） : 区分 1（神経系）、区分 2（甲状腺、肝臓）

## 環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分 1

水生環境慢性有害性 : 区分 2

## 絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報	: 引火性液体および蒸気 : 飲み込むと有害 : 眼刺激 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い : 臓器の障害（神経系） : 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ（甲状腺、肝臓） : 水生生物に非常に強い毒性 : 長期的影響により水生生物に毒性
---------	--

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
成分及び含有量	: フィプロニル 10 % 溶剤等 残

主成分の化学名	
フィプロニル	: 5-アミノ-1-[2,6-ジクロロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-3-シアノ-4-[(トリフルオロメチル)スルフィニル]ピラゾール

通知すべき物質：フィプロニル 10%

成分名	CAS 番号	化審法 官報公示整理番号	安衛法 官報公示整理番号
フィプロニル	120068-37-3	5-6414	—

### 4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移す。呼吸が止まっている場合や弱い場合は適切な救命措置を取り、出来るだけ早く医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに石鹼で洗い落とし、多量の水で洗い流す、必要な場合は医師の診察を受ける。
目に入った場合	: 直ちに多量の水で目を洗浄し、眼科医の手当を受ける。
飲み込んだ場合	: 使用者等が本剤を誤って摂取した場合は、口をすすぎ、ただちに医師の診察を受ける。

## 5. 火災時の措置

消火方法	: 火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。熱分解により有害ガスを発生する恐れがあるので注意する。 消火活動は風上から行う。 周辺火災の場合、周辺の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
適切な消火剤	: 泡、粉末、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	: 該当データなし

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 保護具及び緊急時措置	: 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
環境に対する注意事項	: 河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 回収、中和などの浄化の方法及び機材等	: 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させてから回収する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項 取扱者のばく露防止策	: 取り扱う前には添付文書をよく読むこと。 内容液を直接手で触らないこと。内容液が皮膚に付着した場合は、まれに一過性の皮膚反応が起こることがあるので、作業後は石けん等で手をよく洗うこと。 本剤投与後、完全に乾くまで（通常4時間程度）は投与部位に直接触れないこと。また、投与したことを知らない人も触れないように注意すること。特に小児がいる多頭飼いの家庭で複数の犬に同時に本剤を投与する場合には、投与した犬と小児との接触を避けること。 飲食、喫煙をしながら投与しないこと。
-------------------------	---

---

**保管上の注意事項**

保管条件	: 火気厳禁 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に保管すること。 誤用を避け、品質を保持するために、他の容器に入れかえない。
------	--

---

**8. ばく露防止及び保護措置**

---

**ばく露防止**

ばく露限界値	: 該当データなし
生物学的指標等の許容濃度	: 該当データなし
可能な限りばく露を 軽減するための設備対策	: 該当データなし

---

**9. 物理的及び化学的性質**

化学品の外観	: 無色～黄色澄明の粘性の液体
臭い	: 有機溶剤臭
引火点	: 35℃（タグ密閉式）
発火点	: 100℃以下で発火せず。

---

**10. 安定性及び反応性**

避けるべき条件（可燃性）	: 可燃性あり
--------------	---------

---

**11. 有害性情報**

---

**急性毒性**

フィプロニル	: 経口-ラット LD <sub>50</sub> : 97 mg/kg
--------	--------------------------------------

---

**皮膚腐食性及び皮膚刺激性**

フィプロニル	: ウサギによる皮膚刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある（農薬登録申請資料（1995））。
--------	---

---

**眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性**

フィプロニル	: ウサギでの眼刺激性試験において、3日目には消失した軽度の結膜の発赤が見られたが、平均の Draize score は 0.44 であった（農薬登録申請資料（1995））。
--------	---

---

---

呼吸器感作性又は皮膚感作性

フィプロニル : データ不足のため分類できない。

---

生殖毒性

フィプロニル : ラットを用いた2世代繁殖試験において、体重増加の抑制が見られる用量で交尾率の低下(F1のみ)、同腹児数および出生時生存児数の低下が見られた(農薬登録申請資料(1995))。

---

特定標的臓器毒性、単回ばく露

フィプロニル : ラットでの試験において、間代性痙攣、立毛、異常歩行、下痢、呼吸数低下、嗜眠、昏睡、振せん、自発運動量の低下が見られた(農薬登録申請資料(1995))。

---

特定標的臓器毒性、反復ばく露

フィプロニル : ラットで試験において、肝臓および甲状腺の絶対/相対重量増加、甲状腺濾胞上皮細胞肥大の増加/過形成の増加傾向、雄で肝全葉脂肪化増加が報告されている。また、イヌでの試験においては、活動性低下、振戦、痙攣、筋攣縮等が報告されている(農薬登録申請資料(1995))。

---

吸引性呼吸器有害性

フィプロニル : 該当データなし

---

## 12. 環境影響情報

フィプロニル

水生環境急性有害性

: 魚毒性

ニジマス LC<sub>50</sub>: 0.25 mg/L-96 hr

藻類(緑藻)のEC<sub>50</sub>=0.074mg/L(農薬登録申請資料、1995)。

水生環境慢性有害性

急性毒性が区分1、急速分解性がないと推定され(BIOWIN)、生物蓄積性があると推定される(log Kow=4 (PHYSPROP Database、2005))。

---

**13. 廃棄上の注意**


---

安全で環境上望ましい廃棄の方法	: 廃棄する場合には、地方公共団体条例等に従い処分すること。
容器・包装の適切な処理方法	: 空容器は適切に処理する。その際「使用上の注意」の記載事項及び可燃性液体に関する注意事項に留意して取り扱う。

---

**14. 輸送上の注意**


---

危険性	: 可燃性
容器が転倒、落下、破損しないように充分注意するとともに、輸送前に破損や漏出がない事を確認する。	

---

**15. 適用法令**


---

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律	: 動物用医薬品
毒物及び劇物取締法	: 対象外
労働安全衛生法	: 対象外
消防法	: 危険物第四類 第二石油類 非水溶性液体
化学物質排出把握管理法	: 第一種指定化学物質（フィプロニル） 政令番号 1-22

---

**16. その他の情報**


---

引用文献	
・独立行政法人 科学技術振興機構 日本化学物質辞書	URL : <a href="http://nikkajweb.jst.go.jp/nikkaji_web/pages/top.jsp/">http://nikkajweb.jst.go.jp/nikkaji_web/pages/top.jsp/</a>
・United States National Library of Medicine TOXNET (Toxicology Data Network)	URL : <a href="http://toxnet.nlm.nih.gov">http://toxnet.nlm.nih.gov</a>
・危険物確認試験：性状確認、引火点測定試験、発火点測定、水溶性確認試験	
・独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果	
・安全衛生情報、GHS モデル MSDS 情報	

---